

第7章 主要品目別施策

(1)米



現状と課題

- 県の主力品種は「ハツシモ」「コシヒカリ」であり、作付面積の約70%を占めています。また、令和元年度から、新たに「ほしじるし」「あきさかり」の栽培が始まっています。
- 米の消費量が毎年減少している中で、多様化するニーズに対応できる、ぎふ米産地づくりの取組みが求められています。
- 所得確保に向けて、良食味栽培技術、省力・低コスト栽培技術の普及、多収性品種の導入などが必要です。

主な取組み

■主食用米

- 土づくりや適正な施肥時期・量など栽培技術の徹底により、ハツシモ、コシヒカリの高品質・良食味栽培の普及と計画的な生産を進めます。
- 10aあたりの収入に着目し、需要が見込め作期分散ができる多収性品種の導入と生産拡大を進めます。
- 直播栽培や密苗栽培など、地域の実情に応じた資材費など生産コストの低減技術の普及を進めます。
- 老朽化しているカントリーエレベーターなど産地の基幹的共同利用施設について、機能の高度化や再編利用を支援します。

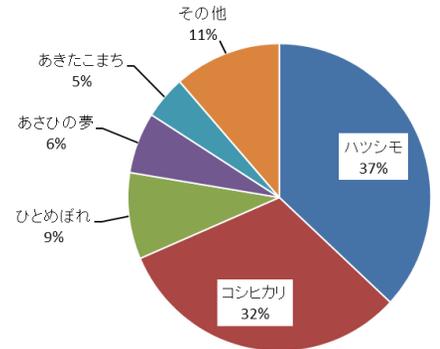
■酒造好適米・もち米・米粉用米

- 産地と実需が参画する栽培研究会等により、結びつきの強化を図るとともに、新たな品種の導入、品質向上に資する施肥体系の改善、適期収穫などを進めます。
- 生産と実需の事前契約・複数年契約による安定取引の拡大を推進します。

■飼料用米・加工用米

- 多収栽培技術の普及と、生産と実需の複数年契約による長期安定的な取引の拡大を推進します。

令和元年産品種別作付面積割合



県農産園芸課調べ



実証ほ場での生育状況確認



「ぎふの米粉フェア」での米粉商品

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
奨励品種に位置付ける多収性品種	385ha	1,500ha
米の食味ランキング (飛騨コシヒカリ、美濃コシヒカリ、美濃ハツシモ)	特A:1(飛騨コシヒカリ) A:2(美濃コシヒカリ、 美濃ハツシモ)	特A:3

第7章 主要品目別施策

(2) 麦・大豆・加工業務用野菜

現状と課題



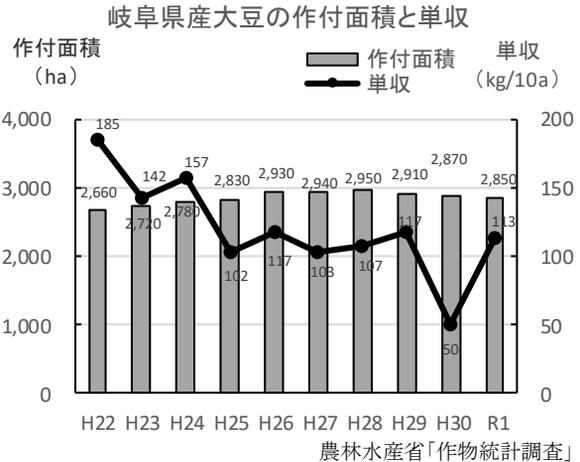
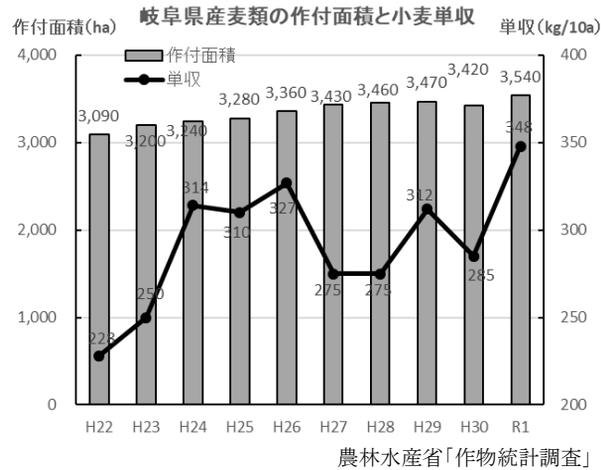
- 麦、大豆は、米-麦-大豆による2年3作体系で、実需（卸売業者・加工業者）との播種前契約に基づき、生産されています。
- 麦、大豆の実需からの評価は高いものの、天候やほ場条件等の影響により収量や品質の年次変動が大きく、需要に応える安定供給が課題となっています。
- 産地の取組みを実需に対してPRするとともに、実需が求める量・品質などを捉えるための情報交換を行っています。
- 水田農業における経営の複合化のため、需要が高まる加工業務用野菜に着目し、生産出荷体制の整備が必要です。

主な取組み

- 麦
 - 需要に応える品質（タンパク含量等）や収量の高位安定化に向けて、地域や品種に応じた最適な施肥方法の確立・普及を進めます。
 - 病害等の発生による収量の不安定を克服するため、需要を捉えつつ、新たな品種の導入と生産拡大を進めます。
- 大豆
 - 地域における多収阻害要因を調査・分析し、排水対策の一層の徹底や土づくりなどの実践と、生産性向上を図る栽培技術の確立・普及を進めます。
 - 主力品種「フクユタカ」と作業分散ができ、加工適性等に優れた新たな品種の導入を進めます。
- 加工業務用野菜の生産体制強化
 - 加工用のキャベツ、タマネギ等について、産地・実需・関係者が一体となり、安定取引や生産性向上を推進します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
小麦・大麦の生産量	10,973 t	11,520 t
大豆の生産量	3,220t	4,850t
加工業務用野菜(キャベツ)の生産量	2,301 t	3,090t

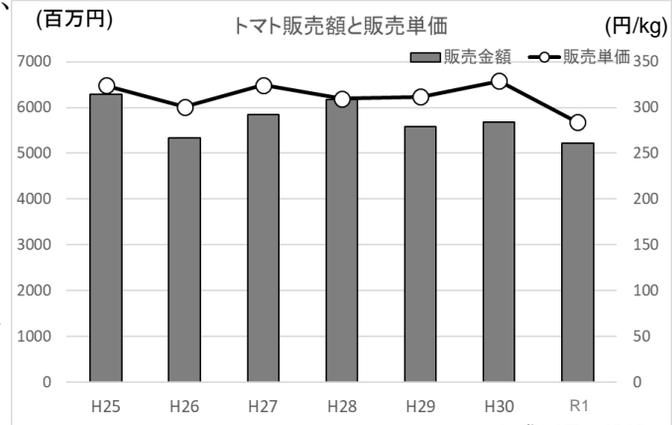
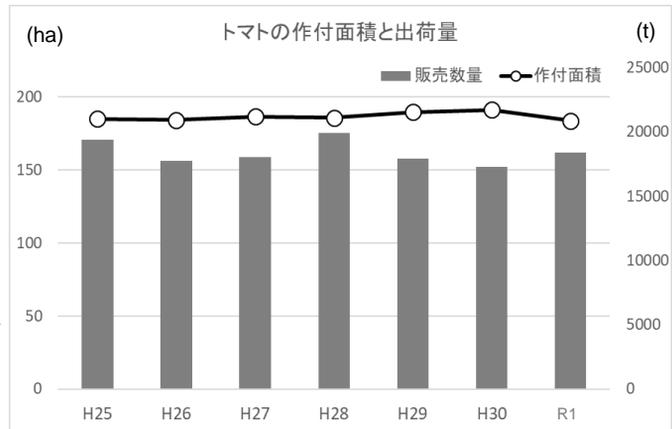


(3) トマト



現状と課題

- 本県産のトマトは、夏期の冷涼な気候を活かして、中山間地域を中心に栽培される夏秋トマトと、冬期の温暖な気候を活かし平坦地域で栽培される冬春トマトがあり、産地リレーにより周年出荷されており、生産量は全国7位（中部9県で2位）となっています。
- 近年、冬春トマトにおいて熊本県などの産地間での競合が激化しており、経営安定のため、低コスト化や収量増加が必要です。
- また、地球温暖化による夏期の高温化に伴い、夏秋トマトの品質低下等影響が懸念されています。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■県開発技術(独立ポット耕栽培システム、3Sシステム)の普及推進

- 県が開発した高収量を可能とする独立ポット耕栽培や3Sシステムの導入を進め、経営の安定を図ります。

■高温化での安定生産を可能とする品種選定、栽培技術の確立

- 夏秋トマトにおいて、高温化で増加する果実の裂果など品質低下が軽減される品種や遮光技術などの導入促進により安定生産を図ります。

■スマート農業技術の導入促進

- 冬春トマト及び夏秋トマトの単収向上・高品質生産のため、環境制御技術及び環境モニタリングデータの活用の実証を進め、生産現場への普及を図ります。



トマト3Sシステム

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
トマト共販出荷量	18,381t	18,400t

第7章 主要品目別施策

(4)ほうれんそう



現状と課題

- 本県産のほうれんそうは、平坦地域と中山間地域の産地リレーにより周年出荷されており、生産量は全国6位（中部9県で1位）となっています。
- 特に、飛騨地域を中心に生産される夏ほうれんそうは、4月～11月にわたり中京、北陸市場はもとより、京阪神市場にも出荷されており、大阪市中央市場では、年間占有率が1位（約4割）となっています。
- 近年、農家の高齢化や担い手不足等のため、生産量が減少しており、産地の構造改革が必要です。
- また、栽培技術においては、地球温暖化や難防除病害虫、外来種雑草への対応が必要です。

主な取組み

■農作業の分業化促進

- 労働時間を要する出荷調製作業等の分業化を進め、規模拡大や収量増加を図ります。

■生産安定に向けた栽培技術の確立

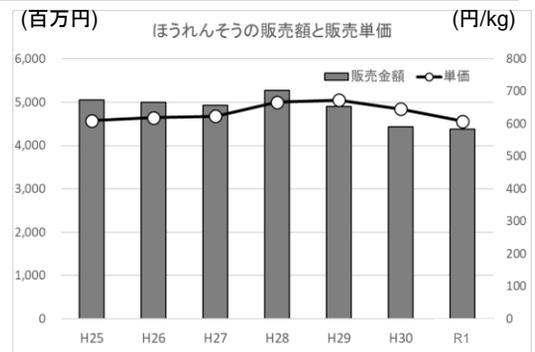
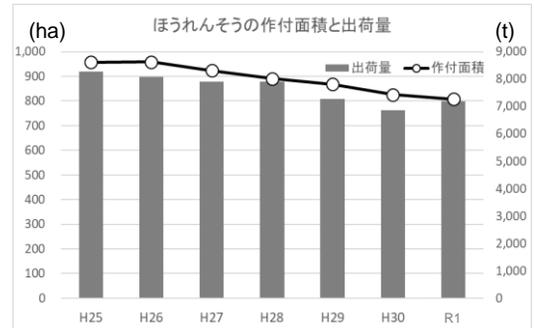
- べと病に対する抵抗性品種の導入、難防除害虫（ケナガコナダニ）及び外来種雑草（ゴウシュウアリタソウ）への対策を進めます。

■地球温暖化への対応

- 夏ほうれんそうについて、高温下でも安定生産が可能となる品種の導入や、遮光、かん水技術などの導入促進により安定生産を図ります。

■スマート農業技術の導入促進

- 自動遮光カーテンや自動追尾型運搬ロボット等のスマート農業技術の導入促進により、高品質生産や省力化を図ります。



県農産園芸課調べ



出荷調製作業

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
夏ほうれんそう共販出荷量	6,321t	6,350t

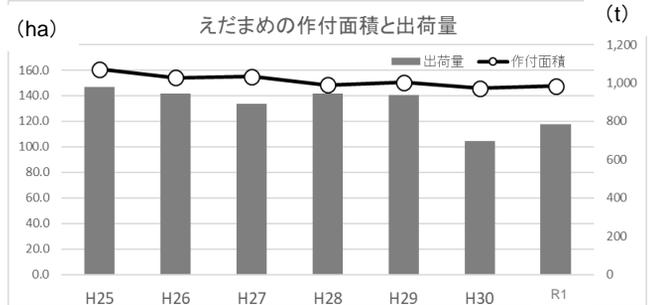
第7章 主要品目別施策

(5) えだまめ



現状と課題

- 本県産のえだまめは、岐阜市を中心に栽培されており、生産量は全国10位（中部9県で1位）となっています。
- 防虫ネットを使用した減農薬栽培により、安全・安心なえだまめが生産されており、京阪神市場ではトップ銘柄として取引されています。
- 出荷量は年々減少しており、農家ごとに行っている選別作業の分業化の促進などにより、生産を維持できる取組みが必要です。



主な取組み

■農作業の分業化促進

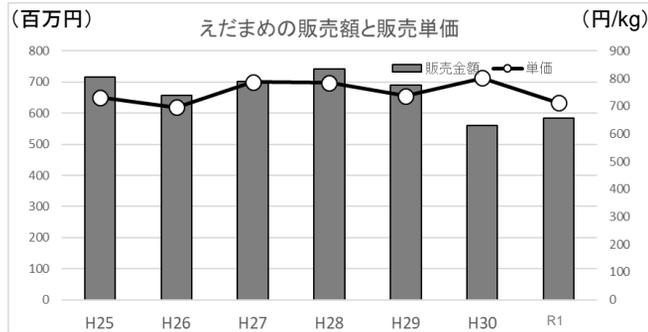
- 労働時間を要する選別作業（大きさ、色、品質等で選別する作業）の分業化を促進し、農家負担を軽減することで生産活動が強化できるよう支援します。

■機械化体系の導入支援

- 播種や調製作業の省力化を図るため、播種機やもぎとり機等の機械導入について支援します。

■高品質な優良品種の導入促進

- 梅雨時期の莢傷みや高温干ばつ時の空莢（さや）が少ないなど、高品質が期待できる品種の導入を進めます。



県農産園芸課調べ



えだまめ選別作業

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
えだまめ共販出荷量	783t	785t

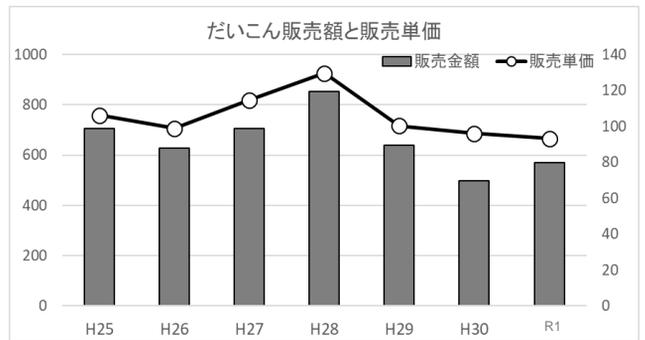
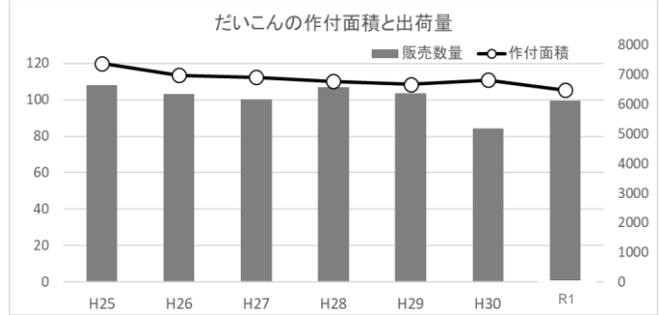
第7章 主要品目別施策

(6)だいこん



現状と課題

- 本県産だいこんの生産量は全国17位（中部9県で3位）となっています。
- 岐阜地域を中心に、秋冬だいこん、春だいこんをはじめ、正月に提供される、祝だいこんや、守口だいこんなど特色のあるだいこんも栽培されています。
- また、郡上地域では、「ひるがの高原だいこん」として、冷涼な気候を利用した夏だいこんが生産されており、平坦地域と合わせ、年間を通じたりレー栽培が行われています。
- 近年では、農業者の高齢化による担い手不足に加え、市街化による農地の減少や、夏期の高温干ばつによる収量減少など産地の縮小が懸念されます。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■スマート農業技術導入による省力化推進

- だいこん生産における、耕起、播種、除草、収穫作業など主要作業について、実証ほ場を通じ、スマート農業技術の導入促進を図ります。

■有利販売に向けた有望品種の選定

- 有利販売に向け、高い市場評価を得るため、病害虫に強く、形状に優れた品種の選定・導入を推進します。

■高温干ばつ対策の普及

- 夏期における夏だいこんの高温干ばつ対策として、畑用モニタリング機器を活用した効率的なかん水方法を検討し普及を図ります。



散水車による干ばつ対策

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
だいこん共販出荷量	6,111t	6,120t

第7章 主要品目別施策

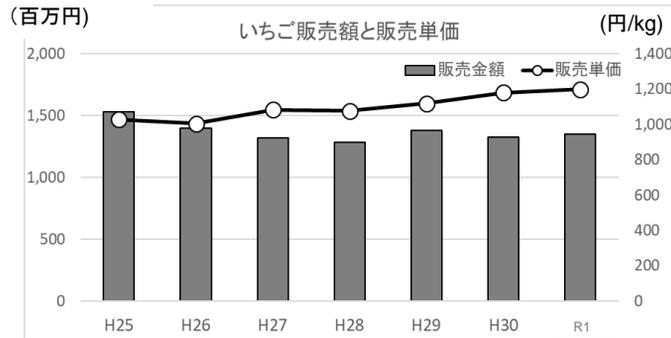
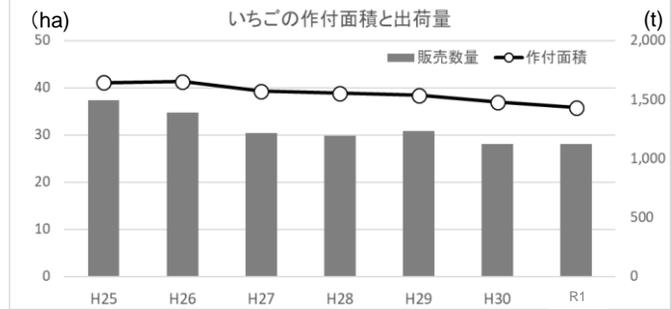
(7)いちご



県育成品種:華かがり

現状と課題

- 本県産いちごの生産量は全国15位（中部9県で3位）となっています。
- 県育成品種の「濃姫」「美濃娘」「華かがり」の栽培が全体の8割を超えています。
- 中でも、平成29年10月に品種登録された「華かがり」は、果実が大きく、形がきれいで、果汁が多く甘い特長があり、本県の新たなブランドとして期待されています。
- 平成20年に「JA全農岐阜いちご新規就農者研修所」が開設され、新規就農者が毎年育成されている一方で、農家の高齢化も進んでおり、生産量も大きく減少しています。
- 高設ベンチ養液栽培システムの導入により省力化を進めています。一方で、いちご農家にとって、果実を選別しパッケージ詰める出荷調製作業は全体作業の約5割を占める重労働となっています。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■農作業の分業化促進による生産力強化

- 出荷調製作業を農家の作業から分離し、分業化を進めることで、農家の負担軽減を図るとともに、農業生産に注力できる環境づくりを進めます。

■県育成品種を活用したブランド化

- 農家の経営安定化に向け、県育成品種「華かがり」を筆頭に、「濃姫」、「美濃娘」の特長を生かした生産販売により、本県産いちごのブランド化を進めます。



高設ベンチ養液栽培

■スマート農業技術活用による後進の育成

- 経験の浅い農業者等が熟練者の技術を見て学ぶことができる栽培学習支援システムの構築により、産地における栽培技術の底上げを図ります。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
いちご共販出荷量	1,176t	1,180t

(8) 柿



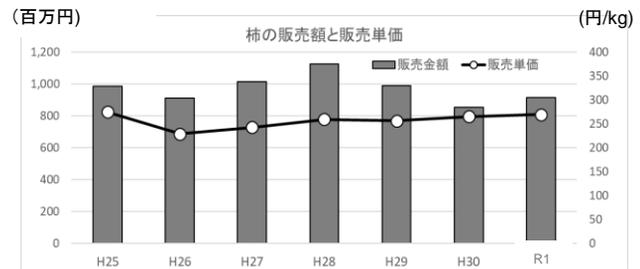
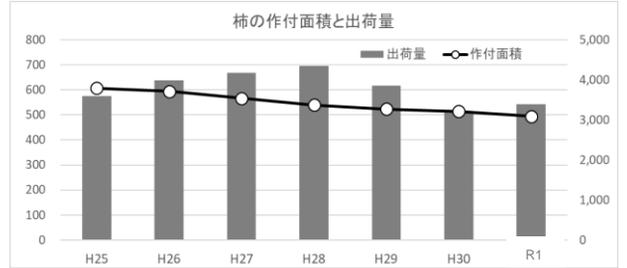
現状と課題

○本県の柿生産量は、全国4位（中部9県で1位）を誇り、全国有数の産地となっています。

○特に「富有柿」は、栽培面積の約7割を占めており、本県産柿の主力品種として、中京方面の市場を中心に京浜方面の市場へも出荷されています。

○晩生品種である「富有柿」は、全国的に広く栽培されていることから、出荷時期となる11月下旬には産地間での競合が激化するため、有利販売する取組みが必要です。

○農家の高齢化や担い手不足により、年々栽培面積が減少しており、産地の縮小が懸念されます。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■「富有柿」の産地維持・発展に向けた取組支援

○間伐や摘蕾（てきらい）・摘果（てきか）等、基本技術の徹底により、収穫量確保と大玉・高品質果実生産を進めます。

○早生品種「早秋」、中生品種「太秋」の新植・改植を進め、主力品種である「富有柿」に繋ぐリレー出荷体制の確立を図ります。

○老朽化した柿選果場の再整備を促進し、生産体制を強化します。



天下富舞の初売り

■トップブランドの確立による県産柿の地位向上

○県育成品種「ねおスイート」は、高級ブランド柿「天下富舞」として認知されつつあるため、産地における栽培技術を早急に確立し、市場へ安定供給することでトップブランドに育て、県産柿全体のイメージアップを図ります。

目標指標

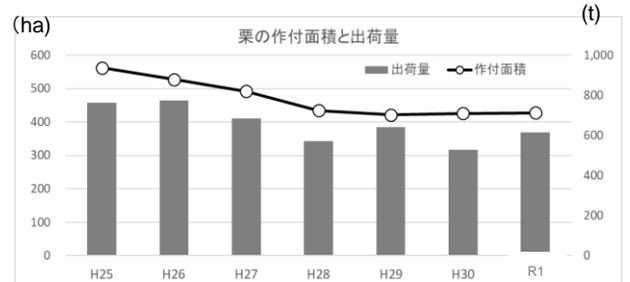
指標名	現状(R1)	目標(R7)
柿共販出荷量	3,385t	3,400t

(9) 栗



現状と課題

- 本県産の栗の生産量は全国4位（中部9県で1位）となっています。
- 栗きんとん等和菓子の原料として利用されていますが、九州など温暖な産地との競合が生じています。
- 生産者の高齢化が進んでおり、担い手不足等による放任栗園の増加が懸念されています。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■新品種「えな宝来」、「えな宝月」および「ぼろたん」の導入促進

- 県育成品種であり、食感や甘味に優れ、栗きんとん等の加工特性に優れた極早生品種「えな宝来」、早生品種「えな宝月」の導入を促進し、8月下旬から県産栗が供給できる体制を整えます。
- また、渋皮が剥がれやすく焼き栗に向く「ぼろたん」の認知度向上を進めます。



ぼろたんの焼き栗

■優良栗園の維持・拡大に向けた取組促進

- 恵那地域を中心に、省力で、大粒・高品質な栗生産が可能となる低樹高・超低樹高栽培が拡大しており、この剪定技術を県内産地へ拡大します。
- また、剪定技術を有する農業者の育成により、技術を要する剪定作業の受委託を進めます。



超低樹高栽培

■スマート農業技術の導入促進

- ドローンを活用した航空防除や収穫機の導入促進により、防除・収穫作業の省力化を図ります。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
地元菓子業者への供給量	164t	200t

第7章 主要品目別施策

(10)桃・りんご



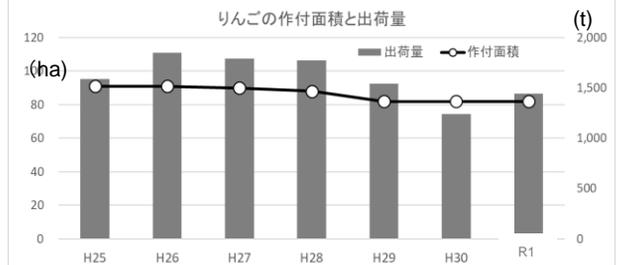
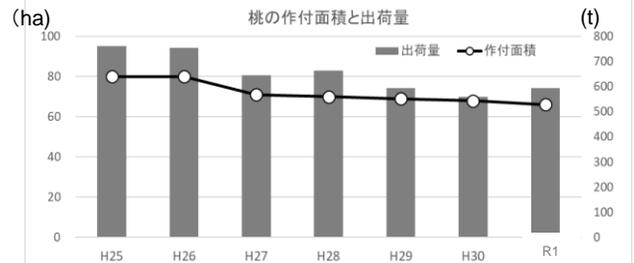
現状と課題

○本県産の桃・りんごの生産量はともに全国10位（中部9県で2位）となっています。

○いずれも、飛騨地域を中心に生産されており、中山間地域における果樹の主力品目となっています。

○桃の優良台木「ひだ国府紅しだれ」をはじめ、県育成品種「飛騨おとめ」の導入が始まっており、高品質果実生産のための技術開発や普及が必要です。

○また、後継者不足や高齢化により、産地縮小が懸念されるため、生産規模の維持・拡大のため省力化技術等の導入が必要です。



県農産園芸課調べ

主な取組み

■新品種「飛騨おとめ」の導入促進

○桃では、県育成品種「飛騨おとめ」や輸出を見据えた晩生品種の導入を進めます。

○りんごでは、「つがる」、「ふじ」に加え、多様な消費者ニーズに対応できるよう補完品種の導入を進めます。

■高品質安定生産技術の確立

○近年の温暖化による気候変動で頻発している病害虫、障害果、樹体凍害及び雪害等への適応技術の開発と導入を進めます。



県育成品種「飛騨おとめ」

■省力化・軽労働化技術の導入促進

○省力化による生産性向上を目指して、桃の1本支柱枝吊り栽培やりんごの密植栽培等新たな技術の導入や、高所作業車、乗用モア等の機械導入を進めます。

目標指標

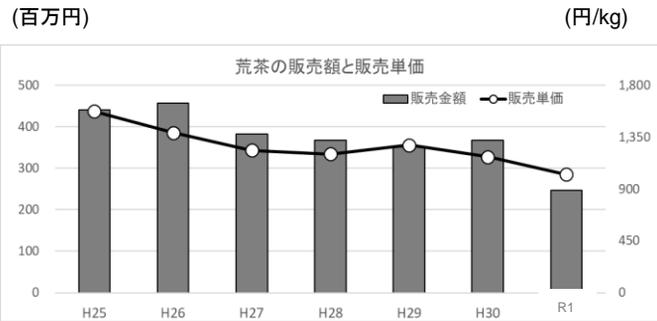
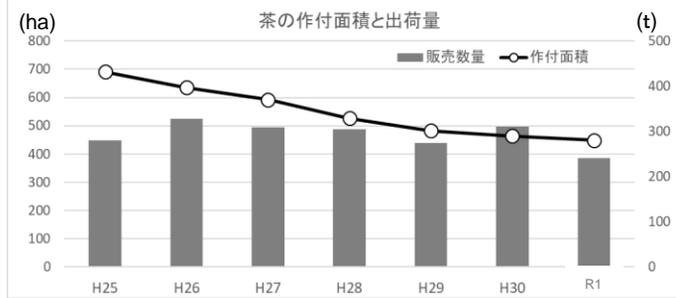
指標名	現状(R1)	目標(R7)
桃出荷量	595t	600t
りんご出荷量	1,440t	1,450t

(11)茶



現状と課題

- 本県の茶生産は西濃地域の「美濃いび茶」、中濃地域の「美濃白川茶」の2銘柄の産地が中心となっています。
- 近年、清涼飲料の緑茶飲料は増加傾向にあるものの、緑茶（リーフ茶）の消費量は落ち込んでいます。
- 農家の高齢化により、機械化が困難な急傾斜地を抱える産地では、荒茶単価の低迷も加わり、急速な産地の縮小が懸念されます。



主な取組み

■優良茶園の台帳整備と次世代への継承

- 乗用摘採機による作業が可能な茶園や将来に向け整備が必要な茶園など、産地の茶園の実態を把握するとともに、作業受委託を促進し、産地の維持を図ります。

■荒茶加工施設の再編

- 老朽化した製茶工場の統合再編を進め、より低コストな荒茶生産を促進します。

■特色あるお茶づくりや輸出促進

- 手揉み茶など伝統的な製法を継承するとともに、紅茶、萎凋（いちょう）茶、発酵茶など、特色あるお茶づくりや、海外に向けた輸出の取組みを進めます。

県農産園芸課調べ



乗用摘採機による摘採



茶摘み体験

目標指標

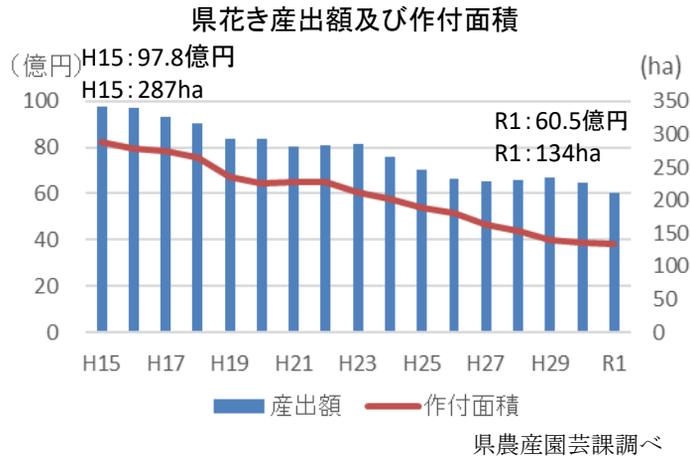
指標名	現状(R1)	目標(R7)
茶の共販出荷量	241t	240t

(12)花き



現状と課題

- 人口減少や消費の縮小、生産・流通コストの増加、輸入花きの増加などにより、花きの経営環境は厳しさを増しており、全国及び本県においても花き産出額の減少が続いています。
- 少子高齢化の進展やライフスタイルの変化により全国的に花きの需要が低迷する中、競争力を高めるには、市場性の高い県オリジナルの品種の育成が求められています。
- 近年の異常気象や温暖化への対応が求められており、暑熱対策等、技術開発による安定生産と品質向上が必要です。
- 利益率向上に向けた生産・流通コストの削減や省力化等の生産技術の開発を推進し、経営力の強化が必要です。



主な取組み

■高品質安定生産に向けた花き産業の振興

- 業界のトレンドや市場ニーズに応じたオリジナル品種や耐暑性・耐病性に優れる品種を育成するとともに、育成品種の円滑な産地導入及びブランド化を推進します。
- 鉢花では売れる商品づくり、切り花では低コスト生産技術の導入など、品目の特性に応じた振興を図ります。
- 省力化、高品質化、生産の安定、収益性の向上を図るため、ICTを利用した施設の高度環境制御技術の開発、AIによる出荷予測技術の開発、低コスト細霧冷房による夏季高温対策技術の開発等に取り組めます。



県育成品種「フェアリームーン」
(フランネルフラワー)

目標指標

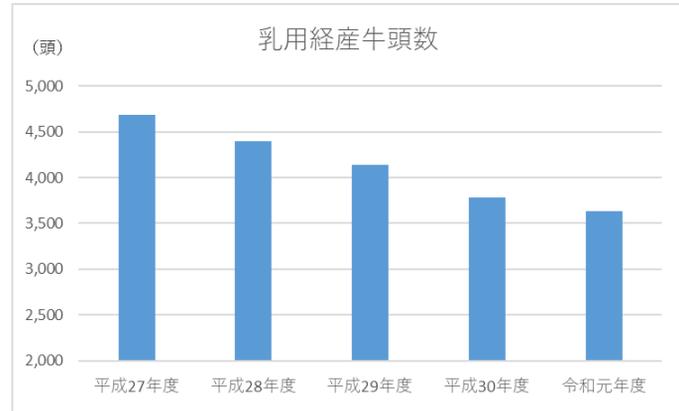
指標名	現状(R1)	目標(R7)
県が新たに育成した花き種苗登録(出願)数	—	累計7品種

(13)酪農



現状と課題

- 本県の酪農は、生乳生産量が年々減少しており、県内で消費される飲用牛乳のうち約半分は県外の生乳（主に北海道）に頼っています。
- 本県において生乳生産量を確保するには、1戸当たりの生乳生産量を増やす必要があります。このため、個別の酪農家の施設・機械等を新たに整備し、増頭する体制を構築するとともに、乳用後継牛の効率的な生産及び飼養管理の効率化を図ることで、農家の経営改善を推進する必要があります。



農林水産省「畜産統計調査」

主な取組み

■生乳の生産基盤強化

- 生乳の生産基盤強化に向け、機械導入・施設整備に対する支援や牛舎の空きスペースを活用した増頭を支援します。

■高能力乳用後継牛の効率的な生産支援

- 性別別技術を活用することで、効率的な高能力乳用後継牛の生産を推進します。
- 東濃牧場を活用し、乳用後継牛を確保することで、計画的な搾乳牛の更新を推進します。

■農家の経営改善支援

- 酪農経営の改善を支援するため、労働負担の軽減につながるICT技術の活用や、牛群検定への加入を推進します。

■新たな担い手の育成

- 酪農経営の後継者などの担い手や雇用就農希望者に対し、畜産研究所酪農研究部と東濃牧場において、酪農業に必要な知識・技術の習得を支援します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
乳用経産牛頭数	3,630頭	3,530頭

第7章 主要品目別施策

(14) 飛騨牛



現状と課題

- 飛騨牛が県の統一ブランドとなって以来、30年以上が経過し、全国的なブランド牛肉となっています。
- 一方、飛騨牛生産者の高齢化や担い手不足等により、繁殖雌牛及び肥育素牛の頭数が減少し、飛騨牛の認定頭数が減少傾向です。
- このため、後継者の育成を図り、安定的に子牛を生産・供給する体制整備など、生産基盤強化への支援が必要です。

主な取組み

■新たな担い手の育成

- 「飛騨牛繁殖研修センター」において、岐阜大学、JA全農岐阜等と協働で、生産基盤を担う次世代の生産農家の育成のための研修を実施します。

■新規就農者・増頭意欲のある農家への支援

- 研修修了生などの就農希望者に対しては、初期投資軽減のためのアパート牛舎や施設整備等の支援、就農後の技術指導や経営分析等のフォローアップを実施します。
- 増頭意欲のある農家に対して、施設整備や繁殖雌牛の導入を支援します。

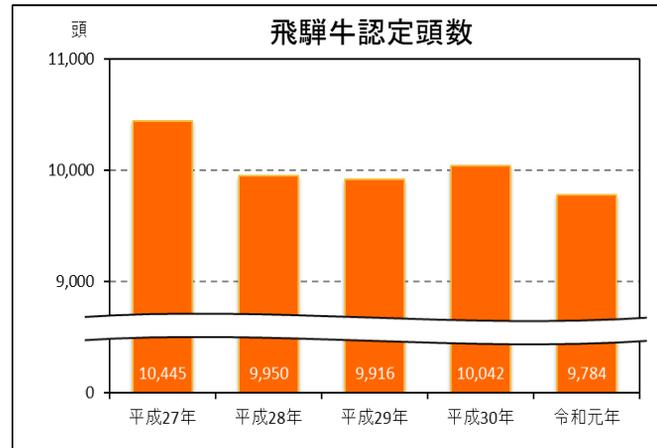
- 農場の経営実態に応じた対策を個別に指導・改善することで、ウイルス感染症など各種疾病を抑制し、生産性を上げる取組みを推進します。

■種雄牛造成と優良な雌牛保留の推進

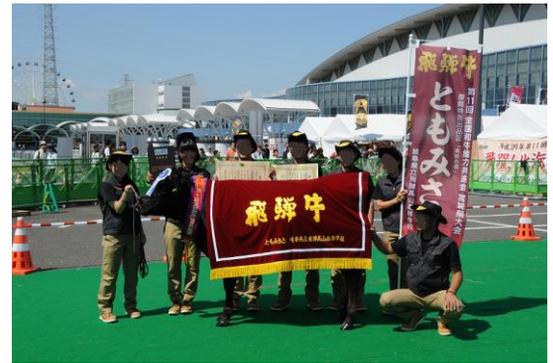
- 「安福」に代表される優れた能力を引き継ぐ後継種雄牛を造成するため、遺伝子（ゲノム）を用いた優良な系統の選抜を行い、高能力牛の選抜を実施します。
また、飛騨牛の質・量の充実を図るため、高能力な雌牛の保留・導入を推進します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
飛騨牛認定頭数	9,784頭	10,500頭



飛騨牛銘柄推進協議会調べ



第11回全宮城県大会で高校の部初代日本一に輝いた飛騨高山高校のメンバーと出品牛

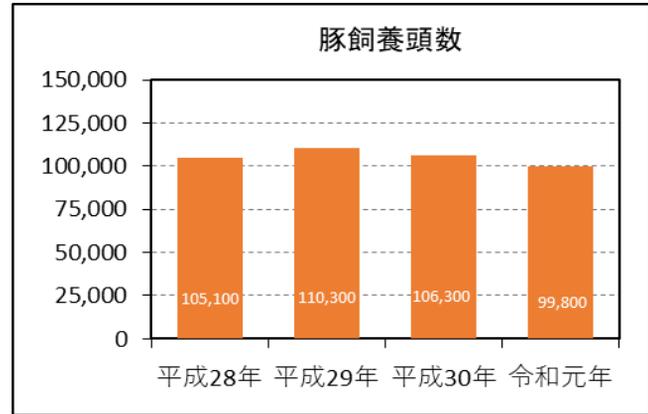
第7章 主要品目別施策

(15) 養豚



現状と課題

- 本県では、平成30年9月に豚熱が発生し、県全体で6割もの豚を失うなど、養豚業が大打撃を受けました。
- また、飼料価格の高止まりや家畜疾病対策の強化、T P Pの動向等、養豚経営を取り巻く状況が厳しさを増しています。打撃を受けた県内養豚業のいち早い回復と維持・発展には、飼養管理技術の向上や施設整備への支援、種豚の安定供給などの支援が必要です。



農林水産省「畜産統計調査」

主な取組み

■経営指導や施設整備の支援

- 畜産協会等と連携し、個別相談等による飼養管理技術の指導や経営分析を行い、経営技術の向上を支援します。
- 規模拡大等意欲ある農家に対しては、施設等整備を支援します。

■価格安定制度への加入促進

- 豚肉価格の下落の際に肉豚の生産者の経営に及ぼす影響を緩和するため、価格安定制度への加入を促進します。

■地産地消の推進

- 輸入品や国内他産地との競争に打ち勝つため、量販店や精肉店と連携し県産豚肉のP Rや地産地消運動を推進します。

■種豚集団の再造成

- 競争力のある豚肉生産を推進するため、育種改良により霜降り能力が高く病気に強い種豚「ポーノブラウン」の再造成に取り組みます。



種豚「ポーノブラウン」

目標指標

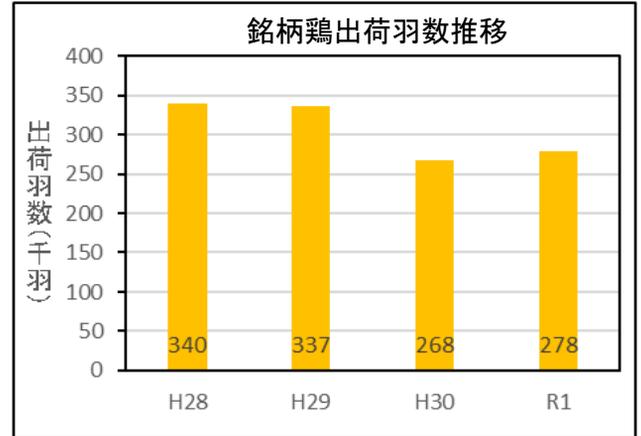
指標名	現状(R1.9月末)	目標(R7)
豚飼養頭数	51,000頭	116,000頭

(16) 養鶏



現状と課題

- 本県の養鶏業は生産コストに占める飼料費の割合が高いことから、近年の飼料価格の高止まりにより、厳しい状況が続いています。
- このため、付加価値の高い銘柄鶏及び鶏卵の販路拡大や家畜防疫体制の維持及び畜舎整備のための取組みに対する支援が必要です。



県畜産振興課調べ

主な取組み

■奥美濃古地鶏の育種改良

- 畜産研究所において、天然記念物に指定されている「岐阜地鶏」を基に開発した奥美濃古地鶏の育種改良に係る研究を実施します。

■県産畜産物の販売推進

- 県内生産者団体が行う県産畜産物のPR、消費拡大活動を支援します。

■価格安定制度への加入促進

- 鶏卵価格の下落の際に、採卵農家の経営に及ぼす影響を緩和するため、価格安定制度への加入を促進します。



奥美濃古地鶏の卵

■生産基盤の整備等

- 規模拡大等意欲ある農家に対し、施設等整備を支援します。高病原性鳥インフルエンザの侵入防止のため、消毒等の疾病対策指導を実施します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
銘柄鶏の出荷羽数	278,000羽	284,000羽

第7章 主要品目別施策

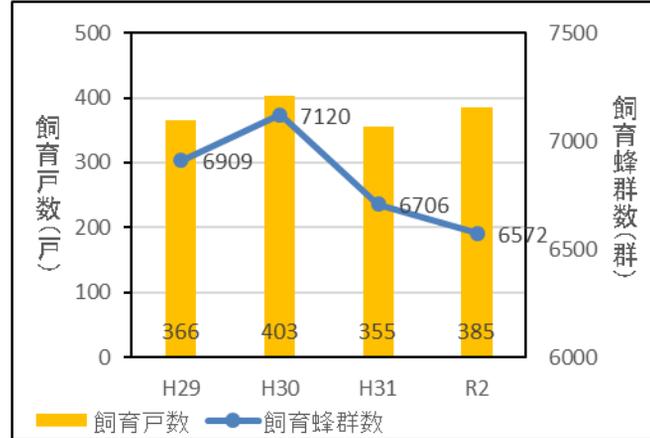
(17)養蜂



現状と課題

- 養蜂業に欠かすことの出来ない蜜源植物は、年々減少しており、年間を通じた採蜜と、安定した採蜜量を確保するには、様々な種類の植物の植栽を行う必要があります。
- 農薬や蜂病等によるものと思われるみつばちへの被害が県内でも発生しているため、被害防止のための取組みを行い、安定した経営を可能にする必要があります。

飼育戸数および飼育蜂群数



県畜産振興課調べ

主な取組み

■蜜源植物確保への支援

- 岐阜県養蜂組合連合会が実施する蜜源レンゲ増殖事業及び蜜源樹木増殖事業に対して支援します。

■採蜜技術向上対策への支援

- 岐阜県養蜂組合連合会が実施する岐阜県はちみつ共進会や、はちみつ生産技術向上のための技術講習会の開催を支援します。



美濃飛驒はちみつ

■危害防止対策の実施

- 農薬や蜂病等によるみつばちへの被害を回避及び防止するため、関係機関の連携を密にし情報共有に努めるとともに、養蜂家に対して情報提供を実施します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
蜜源樹木の植樹面積	10ha	累計50ha

第7章 主要品目別施策

(18)自給飼料

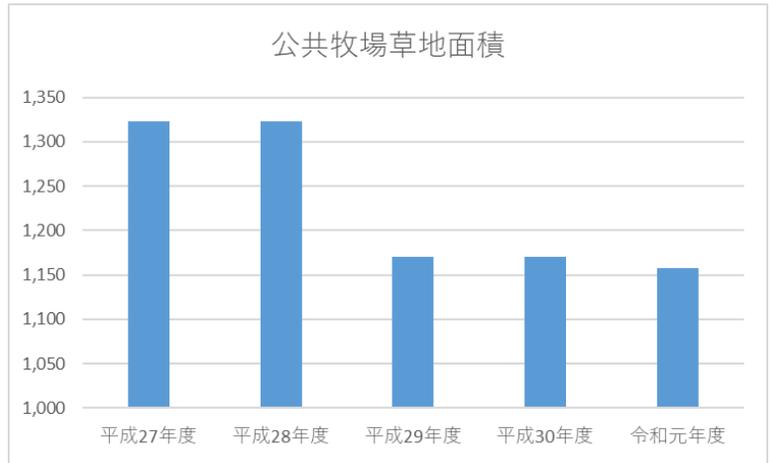


現状と課題

○本県における飼料作物の生産状況は、作付面積が年々減少しており、県内で消費される飼料のほとんどは輸入や県外産に頼っている状況です。

一般的な畜産経営コストに占める飼料費の割合が3～6割と高い中で、輸入飼料価格の高止まりによりさらに畜産経営を圧迫しています。

○輸入飼料価格に左右されない自給飼料基盤に立脚した経営体を育成するため、公共牧場等の再整備や自給飼料増産による飼料自給率の向上が課題となっています。



県畜産振興課調べ

主な取組み

■自給飼料生産基盤の強化

○公共牧場や畜産農家における採草・放牧地の造成や再整備を支援し、自給飼料生産基盤の維持・拡大を推進します。

■自給飼料生産・利用拡大の推進

○水田等を活用した飼料用米・稲WC Sなどの自給飼料生産の拡大を図るため、収穫調製用の施設整備や機械導入を支援するとともに、飼料作物優良品種を普及します。

■飼料生産技術の高度化と普及

○飼料生産技術の高度化による生産量の拡大を図るため、飼料や土壌分析データ等を活用した肥培管理や収穫調製技術を普及します。

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
公共牧場の草地面積	1,158ha	1,158ha

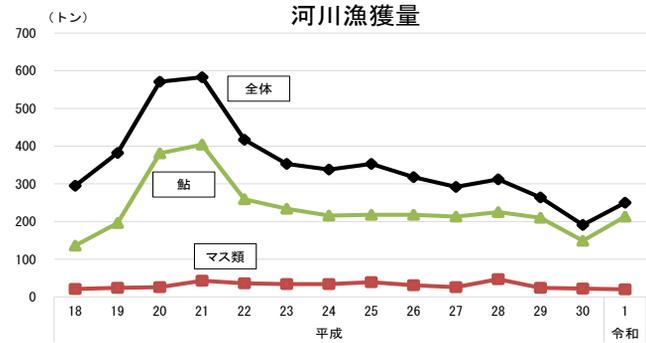
第7章 主要品目別施策

(19) 淡水魚

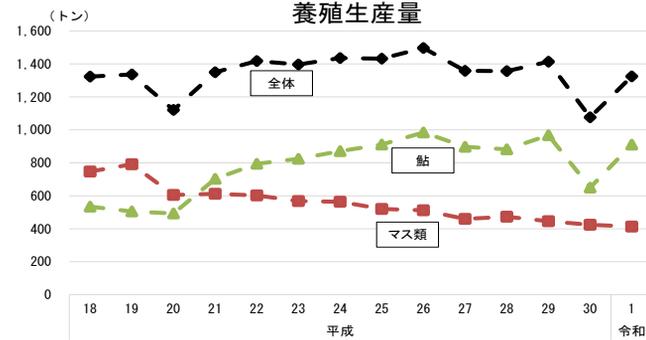


現状と課題

- 本県の水産業は、木曾三川をはじめ河川を漁場とした河川漁業と、山間地における谷水を利用した養殖業から成り立っています。
- 河川漁業の漁獲量は減少傾向にあり、効果的な放流方法への転換等により、淡水魚の漁獲量と遊漁者の増加を図ることが必要です。
- 養殖生産量については、鮎は20年あまりで約4倍（R1：910トン）となっていますが、マス類が一貫して減少しており、全体では、近年横ばいとなっています。このため、刺身など生食の需要が伸びている大型マスの生産の推進を通じて、養殖生産量の増加を図ることが必要です。



農林水産省「漁業・養殖業生産統計」 ※令和元年は速報値



農林水産省「漁業・養殖業生産統計」 ※令和元年は速報値

主な取組み

■河川漁業

○鮎資源の増殖の推進のほか、サツキマスの増殖、溪流魚の親魚放流や発眼卵放流など効果の高い放流技術の普及や外来種の駆除、漁業協同組合が行う環境に応じた適切な漁場管理を支援します。

■養殖業

○養殖衛生管理技術の普及、疾病のまん延防止等の防疫対策を推進するとともに、肉質が良く食材として有望な大型マス、チョウザメの生産技術等の普及を推進します。また、養魚技術の省力化や平準化に向けたスマート技術の導入を支援します。



鮎



アマゴ



イワナ



産卵場造成活動

目標指標

指標名	現状(R1)	目標(R7)
養殖生産量(全体)	1,324t	1,500t